



ARTCOURT Gallery

Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

〈 建築する音 vol.5 - 音・空気・建築 〉 開催のご案内

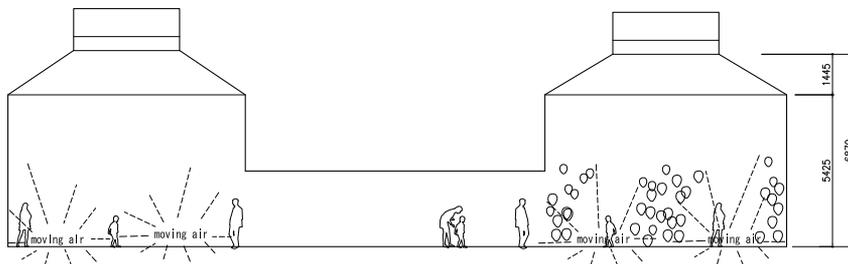
「空間を構成することが建築であり、時間の流れを音によって構成することが音楽であるならば、時間を構成する建築、空間を構成する音は考えられないのか？」

中世ヨーロッパにおいて、建築と音楽の間に密接な比例関係が成り立っていたことに着目し、アーティスト・藤本由紀夫と建築家たちが時間と空間を組み立てるといふ行為を共有することで、現代のアートと建築の関係性について考え、その経験と実践に新たな方向性を見出すための試みとして始まった《建築する音》。5年目となる今年は、アーティスト・岡田一郎をゲストに迎え、「建築」と「音」という本質的な要素に今一度立ち返り、もうひとつの要素「空気」を触媒としながら、両者が関わり合うことの可能性について考察を重ねてきました。

現代の建築空間において、音は「防音」や「消音」という観点から、排除すべき要素として扱われがちです。しかし、建築空間があり、空気の流れがあれば、そこにはつねに自然発生的な音＝「建築の音」が存在します。私たちは、そのような、すでにそこにある「建築の音」を抽出・前景化することで、音 - 空気 - 建築の関係を、ある特殊で印象的な経験として浮かび上がらせることができなかつたかと思ってきました。

例えば、建築の基本的な構造、壁や屋根といった遮蔽部と、窓や換気扇といった開口部の相対する二面性によって、空気が遮断されると同時に限られた空洞を通り抜ける時、建築物が管楽器のように機能して発生する音。岡田一郎による《Moving Air》は、建物の吸気口や排気口などにマイクを近づけて録音するという作業を各地で行い制作されたサウンドワークですが、今回は、「建築の音」の採集標本ともいえるこの作品を素材とし、音と空気と建築が、様々な構図で関わり合う仕掛けと設えによってアートコートギャラリーの空間を構成します。

音によって象られる通路、建築物と音の接触面、空気に媒介される音の移相——。周囲の人間や自分自身の動作・行為を契機として刻々と変化する音 - 空気 - 建築の位相関係を体験しながら、その中に留まり、また、そのあわいを通過することで、私たち一人一人の身体感覚は、次第に「建築を聴く」ことの可能性へと開かれていくことでしょう。



© Ichiro Okada

左：〈建築する音〉のためのイメージプラン / 右：岡田一郎による集音風景 ※画像はすべて参考イメージです。

〈企画概要〉

タイトル：藤本由紀夫 × 建築家 × 岡田一郎 「建築する音 vol.5 - 音・空気・建築」

会場：アートコートギャラリー 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート 1F

公開日時：2010年12月18日(土) 14:00 - 17:00、19日(日) 12:00 - 17:00

◆トークイベント

18日 15:00 - 16:00 岡田一郎 + 建築家 ＊要予約(定員50名)、参加料 ¥500(ワンドリンク付)

[アーティスト・岡田一郎が、建築物や環境との関わりにも触れながら、「Moving Air」を始めとする自作について語り、建築家たちと対話します。]

19日 15:00 - 16:00 藤本由紀夫 + 岡田一郎 + 建築家 ＊要予約(定員50名)、参加料 ¥1,000(ワンドリンク + クリスマスプレゼント付)

[音と建築が関わり合うことの可能性について、〈建築する音〉メンバーと意見を交わしながら、会場内の仕掛けや設えを体験していただくツアー型トーク。]

ご予約：TEL:06-6354-5444 or E-mail: info@artcourtgallery.com (お名前、参加を希望される日程、人数をお知らせ下さい。)

◆アーティスト・・・藤本由紀夫

◆建築家・・・東井嘉信(株式会社大林組本店建築設計部)、荒木洋(AN Architects)、井上琢也(株式会社石本建築事務所大阪支所)、小林幹彦(阪神電気鉄道株式会社)、東原理子(株式会社石本建築事務所大阪支所)、長澤浩二(AN Architects)

◆ゲスト・・・岡田一郎

1976年生まれ。京都市立芸術大学にて彫刻を専攻。2007年、同大学院博士(後期)課程卒業。特定の場所がもつ空間/時間の意味や特性＝「場所性」を意識しながら、周囲の環境や状況と向き合うための手段として作品を制作している。

2003 <Art Court Frontier 2003>、ARTCOURT Gallery (大阪) / 2008 <air-condition>個展、PANTALOON(大阪) / 2009 <ある風景の中に>、京都芸術センター(京都)

主催：アートコートギャラリー / 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、オー・イー・ピーマネジメント株式会社

● お問い合わせ：アートコートギャラリー (八木・清澤) **ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。**

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449

E-mail: info@artcourtgallery.com URL: www.artcourtgallery.com

〈これまでの『建築する音』プロジェクト〉



「建築する音 vol.1 - Composition」

2006年3月10日－3月19日

アーティスト 藤本由紀夫 × 建築家
東井嘉信(株式会社大林組本店建築設計部)
井上琢也(株式会社石本建築事務所大阪支所)
荒木 洋・長澤浩二(AN Architects)

「建築物にアートはいらないが、建築にアーティストは必要だと思う」と述べる藤本氏。建築空間におけるサウンドアートの可能性について建築家と共にディスカッションを重ね、その成果を展覧会で報告しました。

中世ヨーロッパにおいて、建築と音楽は比例関係を通じて密接な関係にあったことに注目し、4人の建築家とアーティスト藤本由紀夫が、アートコートギャラリーにおいて空間と時間を [com・pose] し、(共に・置く、組み立てる)そこにある音楽、そこから生まれる音楽を再認識する建築空間、「建築する音」を表出させることを試みました。



「建築する音 vol.2 - Think with architecture」

2007年7月15日

アーティスト 藤本由紀夫 × 建築家
東井嘉信(株式会社大林組本店建築設計部)
井上琢也(株式会社石本建築事務所大阪支所)
東原理子(株式会社石本建築事務所大阪支所)
荒木 洋・長澤浩二(AN Architects)
小林幹彦(阪神電気鉄道株式会社)

建築物をまるでアート作品であるかのように考える建築家の自己顕示欲的な側面に対し、藤本氏が疑問を投げかけます。それに対し、「『建築する』という行為が、プラクティカルな案件を技術的に解決するだけのものでは、『建築』よりも『建設』という表現が相応しいが、『建築する』という言葉には文学的ニュアンスが感じられる。」と建築家。

『建築する音』第2回目では、『建築』という言葉の本質的な意味合いについて考える“Think with architecture”をテーマとし、ミニマルな空間構成の要素によって、アートコートのシメトリーな構造を活かした対照的な空間を設え、ある一定時間内でその中を移動することにより導き出される空間認識と印象の変化に注目しました。



「建築する音 vol.3 - ミクロコスモス」

2008年9月19日・20日

アーティスト 藤本由紀夫 × 建築家
東井嘉信(株式会社大林組本店建築設計部)
井上琢也(株式会社石本建築事務所大阪支所)
東原理子(株式会社石本建築事務所大阪支所)
荒木 洋・長澤浩二(AN Architects)
小林幹彦(阪神電気鉄道株式会社)

表現形態の多様化に即した柔軟な鑑賞の行為と場を実現させるため、第三回目はより実践的な試みを行いました。「ミクロコスモス(小宇宙)」というひとつの存在形態をモデルに、ギャラリー空間を、作品を展示・鑑賞するための「箱」から、作品と人、そして人と人との相互作用を活性化させ、訪れる人の知的好奇心を触発するサロンの「磁場」へと変容させることを目指し、空間・人・作品が同等な構成要素として相互に作用し合うことを促すユニークな装置「NEST」を考案、藤本由紀夫と建築家たちが様々なバリエーションで展開しました。



「建築する音 vol.4 - 天満大茶会」

2009年10月2日・3日

アーティスト 藤本由紀夫 × 建築家
東井嘉信(株式会社大林組本店建築設計部)
井上琢也(株式会社石本建築事務所大阪支所)
東原理子(株式会社石本建築事務所大阪支所)
荒木 洋・長澤浩二(AN Architects)
小林幹彦(阪神電気鉄道株式会社)

第四回は、＜作品一人一空間＞の相互作用を促し、アートの鑑賞行為を活性化させるコミュニケーション磁場を作り出すという前年のテーマを、日本独自のコミュニケーション形態の一つである「茶の湯」にヒントを得た新たな視点から発展させ、その世界を構成する重要な要素である「見立て」に着目したインスタレーションや、＜人(亭主・客)一空間(茶室)一モノ(掛け軸や茶器)の親密な交遊が生まれる場の成り立ちについての考察から引き出されたコンセプトに基づく茶室的スペース“tea area”が、ギャラリー内の様々な場所に設えられました。空間・人・アートとの交感を通して、普段は見落とされている日常世界の細部や微かな気配を再発見するための集まりをお見見に重ね合わせて催しました。



ARTCOURT Gallery

Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

藤本由紀夫 略歴

- 1950 愛知県生まれ
- 1975 大阪芸術大学音楽学科卒業

[主な個展]

- 1994 藤本由紀夫サウンドオブジェ展 (児玉画廊、大阪)
藤本由紀夫 版画展 (サイ・ギャラリー、大阪)
- 1996 オブライエンの部屋 (サイ・ギャラリー、大阪)
- 1997 廻るものの滑稽 (児玉画廊、大阪)
美術館の遠足 1/10 (西宮市大谷記念美術館、兵庫、'05まで毎年開催)
- 1998 A RED MOON (サイ・ギャラリー、大阪)
- 2001 AUDIO/VISUAL (ギャラリーキャプション、岐阜)
PHILOSOPHICAL TOYS サイ・ギャラリー、大阪
「四次元の読書」(CCGA 現代グラフィックアートセンター、福島)
- 2002 in/out (京都芸術センター、京都)
- 2003 AUDIO/VISUAL II (ギャラリーキャプション、岐阜)
- 2004 PHILOSOPHICAL TOYS II (SHUGOARTS、東京)
- 2006 HERE & THERE (名古屋市美術館、愛知)
- 2007 ECHO—潜在的音響 (広島市現代美術館、広島)
PHILOSOPHICAL TOYS (西宮市大谷記念美術館、兵庫)
+/- (国立国際美術館、大阪)
SILENT et LISTEN (SHUGOARTS、東京)
- 2009 遠 / 近 (シュウゴアーツ、東京)
The Tower of Time (Ikon Gallery/バーミンガム)
美術の中のかたち一手で見る造形「SHADOW-exhibition obscura」(兵庫県立美術館、兵庫)

[主なグループ展]

- 1996 柔らかく重く (埼玉県立近代美術館、埼玉/ライフ・ギャラリー、オハイオ)
写楽再見 (国際交流フォーラム、東京)、「トポスの復権」展2 (アサクラギャラリー、東京)
- 1997 アートラビリス II 時の記憶 (岡山県立美術館、岡山)
ものとあられ 新しい関西の美術家たち (和歌山県立近代美術館、和歌山)
4th 北九州ビエンナーレ 感覚の庭 (北九州国立美術館、福岡)
- 1999 五感の芸術 (クンストハウス、ハンブルク)
- 2000 震災・記憶・芸術 (川崎市岡本太郎美術館)、ガーデン (後楽園、岡山)
- 2001 第49回ヴェニス・ビエンナーレ (カステロ公園、ヴェニス)
among others 4(クンストラハウス、ドルトムント)
Facts of Life : Contemporary Japanese Art (ハイワード・ギャラリー、ロンドン)
- 2002 遠藤利克&藤本由紀夫 (ニューリンアートギャラリー、ペンザンス)
本と美術 (徳島県立近代美術館、徳島)
- 2003 心の在り処—日本の現代美術— (ロードヴィヒ美術館、ブダペスト)
- 2004 心の在り処—日本の現代美術— (モスクワ現代美術館、モスクワ)
第一回大山子国際芸術祭 (大山子芸術区、北京)
マルセル・デュシャンと20世紀美術 (国立国際美術館、大阪)
- 2005 風景遊歩 (丸亀市猪熊弦一郎美術館、香川)
- 2007 第52回ヴェニス・ビエンナーレ (アルセナーレ、ヴェニス)
「関係-FUJIMOTO and, RELATIONS-」(和歌山県立近代美術館、和歌山)
- 2008 小杉武久+藤本由紀夫「音楽」(国際芸術センター青森、青森)
時間の形 Form of Time (ICC、東京)
ライト・イン・サイト—拡張する光、変容する知覚— (ICC、東京) ~'09
- 2009 神戸ビエンナーレ招待作家展「LINK-しなやかな逸脱」(兵庫県立美術館、兵庫)
- 2010 六甲ミーツ・アート「芸術散歩2010」(ホール・オブ・ホールズ六甲、兵庫)
西宮船坂ビエンナーレ2010 (船坂地域、兵庫)